

黄通书日记
大正七年
二月以降

特別

14

1919

575



復魚巻の巻

大正七年六月以降

六月

一日

時初より行先あるを東京上野をりしを
 五時直江津下をこぐ車中牧口我
 維に名申しし故ま二三の傍をまきしを
 車中中しむるも米山迄より雨
 降り出つ、八時四十分江府着、停車
 所、こゝ須更を馬加勢のまを川上法局
 山田毅城須お鞋川山中樵佐重

辰三石塚より杉井郡流の二三子
出迎ふ、直に篠田路跡に入ふ、出迎法
氏との坂、五ヶ峯、高野原、四ヶ峠、等々
又東の、橋本を、左敷を、見度方を
感不、内、あ、寛、三、方、就、を、か、ま、山、向
清、他、も、い、法、と、等、山、日、法、の、後、院、を
下、を、賜、り、未、る、丹、三、平、平、三、を、賜、り、を
か、ま、成、冒、後、身、体、度、方、を、感、ず、る、云、し
石、塚、ハ、此、以、頭、甚、の、效、あ、る、は、射、を、試、む、に
一、と、い、ふ、あ、く、は、射、藥、を、を、を、載、り、は、射、又、す
午後、故、に、杉、井、郡、流、并、流、又、杉、木、弘、未、り、
余、の、酒、樽、を、携、え、と、り、余、の、度、方、の、以、り、ん

東橋原製

辞し置酒し流り刻時あり、不新法
晩るす流、寢後石塚より電機梅原
を余の園部へ施す、粟井より石塚へ車
乘りて、折の常一の物を賜ふ

二日

五時起床、直に篠田路跡より、并に車馬電氣、端
者を出す、八時五分、新法を、見し十時
に中茶、下車、直に雲条の、電氣、
小堂を、訪、ぬ、此、堂、二、月、以、て、中、庭、の
庭、あり、り、し、以、法、清、く、快、方、向、い、ん、格、お
き、ま、い、ん、と、抄、授、り、し、時、に、足、部、不、自

三日

早起此を功の流し此を、荒干の
皇と略うあふる自由ううしあ、
丹美を三須貝彦物と名物を船
る。九時此を、別を先け丹美床
未回付本心。丹後を功の五子
左らす其息幹流と流し終二十時
三十二分の汽車くる。あふ。床平
停車ゆらさう来る。新島田下
車一二人の力を倒れを溜り、真
時をゆら、皇年築き、橋上の生
あ、道すう、北橋一方川に流ひ、一

東橋原製

高く老翁を仰み、住る皇と臣也。
川を流るる村、眼前母屋の茅屋
を塀を隔ち、印の所、宛前謝
蕪村の画也、余自列の風流を賞し
之の意匠を稱す、平の心中仲太
郎が春族は出ると接す、歎時
時を物と、印の流る、漸高橋義
彦と申し、皇の流る、のゆき、之を
ふべきこと、その時別を先け、其の
高橋の家を功の、佛と益田五
印、在り、皇の流を勸む、切也
乃ら其の皇の流を、深更の流味流

二 耽る、其の剣、味あり二三の花刀
 を出し示せる、曰く安穩、曰く猪牙丸
 四公の子懐剣也、曰某、一、深ま
 ぬ、あゝ、秋来雨あり十二の時、

四〇

雨、分、別、高、格、も、少、年、獲、り、印、を
 款、を、示、さ、る、六、刀、剣、の、匣、を、出、し、余
 三、題、名、を、要、あ、乃、ち、四、子、古、丸、
 後、今、の、四、子、を、革、す、夫、古、丸、を、
 格、の、刀、剣、味、も、余、し、る、是、難
 也、九、時、能、し、去、り、其、向、心、十、四、

東林堂製

其、向、心、着、り、其、社、も、山、の、教、
 法、十、二、の、氏、余、の、法、法、を、
 其、衝、の、勢、の、勢、も、續、載、す、へ、
 初、也、此、状、于、此、海、部、一、
 中、の、鉄、法、其、法、平、病、の、
 一、其、の、物、を、賜、り、午、時、
 校、友、あ、あ、杉、井、高、高、
 九、行、形、事、午、時、お、と、
 内、あ、あ、竟、り、二、る、
 七、谷、川、轍、舟、
 福、四、杉、造、林、

方故に此處年と成り石塚を功のせし金石
塚よりワクリン注射を多量にとり来りし
物に元々有るものも其の中にもエントル
井ニサ菌配降の特効ありと云ふ、之れ
市内の校友二十数名も治癒即ち
余りのものは、鋸奈尾、校友入るを
く校友を代る、杉井、余、
申す、余、早大、おし、
あることを済況し、早大、
善後、ふき、傍、余、
ふ、此、余、
を慰する、
と校友

東林原製

今、府上、
依り、
七時、
功、

五日

成、徳川、
と、
事、
即、
田、

高田ありて社とて人とをこし余は性身の比
在社中一の徳意ありてを治ふ所とす然る
相ふるとを成ししもの言路法と草紙に
ある時四十五分徳川徳義より外の人
十餘人とて白山浦とて飯沼城及び
陸奥へ向けたりし物ありたりとあり多
くはなりとす、途中一洗鑛にありて生
れ四十分後ありて陸奥驛とあり、車中
西を坂の大酒津川ありて一ありて
細説ありたり、高杉忠司ありて
を解す、此堂前年一夫上、今漸く回復
規模前もとも大、堂あり所の二ありて三十

二萬田也、陳列の四方の内、西に河内村あり
都家の長官遺墨ありて并に長官
寺入にありて集、終末文書ありて遺墨
ありてありて刮目、吾れは時間ありて
しく開くものありたりしを遺成と
たり、心懸のありて汽車に投し、大河津
川ありてありて其地はこをこし一
行トロッコありて合乘、署長のありて
こし要所を視終り寺ありて入る、千時午
後一時ありて、~~ありて~~照徳寺にありて午
おをを興し、順徳寺のありてありて
寺前ありて教殿のありて合乗ありてあり

と検令し、停車場前の上陸し、一回は汽
車に投し六時過ぎに着、余は後載
外野部と此に大田原に投す、もつちの
一行といはれ実ある、刈り着る同も
子言物と事あるも物りあり余の
心あり、もつち市に投し、
の戦ふ今と伝ふ、度方より早く
帰りし

八日

所、野の懐、或るは、
野に、健康の回復と、
下林、只、堆の

東林原製

物と、余、余、
市、市、市、
石、石、石、
京、京、京、
、、、
茶、茶、茶、
也、也、也、
、、、
余、余、余、

久山に別り親と、北城市街を距る里約牧
野家、廟のありき也、近年道路を擴張
修理し又廟地を修め大いなる面目を改む
他の公園と為すの目的を以つて従前も大
いに地區を擴張し、城東才一の跡區也
三時許して歸る、都通の橋をくゞしと早
方ゆく、今秋来る市未だ招えん場
員一行去る言、彼の家を以て、或は又此城
の報日人に招えん其の家を臨む、吉、方行
事、京野の、五所公、主、徳、有、高、乃、常、白
且と抜き、けり、と報す、校、友、ち、木、集、書、本
訪、石、塚、高、科、區、院、に、招、え、未、二、四、ワ、ワ、レ、ン

東林堂製

注射を受く、の早朝出、か、こ、今、校
深更行、あ、と、く、の、ふ

名

昨今朝六時一行、向、け、野、山、を、九、時
高田着、余、も、橋、義、長、と、共、に、柳、林、に
投、す、大、波、の、水、向、け、り、河、五、分、に、今、井
野、一、と、龍、崎、を、九、時、五、分、に、河、五、分、に、今、井
野、と、共、に、更、に、十、分、に、校、に、別、り、大、倉、の
庭、に、列、す、し、り、正、午、を、大、倉、終、了、を
告、ぐ、今、時、内、の、河、列、の、湯、信、文、考、を
見、る、此、校、に、湯、信、文、考、を、文、考、に、湯、信、文、考、を

んことを以て此^所に創設の爲余^等
此^等の爲に由^因に成^るる社^員に一時も
の演説を為さんことを需^要あり余^等は
一^のの田^意を歩^行を爲^す終^るを偕^行社
を合^成せしむる市^のの秋^に入^るに
悔^みを言^ふ中^に徳^の友^に別^を生^け中
度^して物^心のこころを、高^のの如^くも
十^数人余^のの爲^めに此^等の言^を張^る出
別^前一時の爲^めの的^を刺^すを以^て出
向^を派^し且^つ一^のの演^説を爲^す紀
念^牌をももろし、九^時二十^分の汽
車^に投^して物^車の金^をと^りて、國^府庫

東橋原製

東の三輪田去道七世に物系す

十日

雨^定刻七^時上^のの驛^に着^る其^の由^電
す、病^後十^日の河^心を、柱^ける奔^走ハ
備^さる度^方を感^せしめらる然^んとも
亦^と他^のに演^説を復^しる、この石^塚二^回
の注射^並つりて効^{あり}し、供^{たり}冊
共^原亦^もと、産^二斤^一、高^原和^大市^村
其^の物^を終^り、其^の終^る家^を
産^後終^る由^有中^のの事^を録^す、
其^の事^を決^する日^を過^する

つぎ余の由つても従つて昆白文次中も文の
電報は約日より逆戻りして今日梅子
す、石塚三郎もして十書り、産科病院に
院式の招待状利ふ、北中も味増法と
贈ふ、

十百

明、由縁久二竟もい満紀程と解うすあご増
子才あご増を四日自事治、吾我の改正校親に
代ふ法の怒りもあご増の治して去る、豊四
大興保険合社、杉川松田、おや、事治、余
の保険部満うなまづき、更なる、家屋七千

東橋屋製

田物各こ子田統計者、万田く、いり約束
をわすこことと協定して此保険料三十四五
十製也、出入者画高古池素、こ不正の不正
あつとを、おそあご増、川政、え、此年、余、う増
入の一協、その、いり、いん、え、あご増、おあ
を、あご増、あご増、あご増、あご増、あご増、
品物と、おあご増、市、あご増、白井雅義
事、あご増、あご増、あご増、あご増、あご増、
こ、あご増、あご増、あご増、あご増、あご増、
の、あご増、あご増、

十二の

明少卿所化也洋隆一坂之仁一印素陽妻
 村田中唯一斤文に事功、游苑記行
 約千二枚をり抄写し、自ら刻引
 二千の紙又印紙の、無印紙方知
 田兼其の治端者別、山田清心は依
 乾の寸紙無地を七十冊物を成り、
 湯(或)去印其法、欣二脚執性、付心
 下林、沈庵代中、田老を、午後夜方を
 感して此を、體法を捨て、ん二十七片
 也、後田七思して手、書を為す、琳瑯玉
 して中、抄を二程、おれを、字らし
 栢の香とす

東橋原製

十三の

松天満、中、紙を、紙、素書と、此を、素陽を
 捉き、又、的、場合、素陽、の、字を、写す、前、野、獨
 米、大、使、セ、ラ、ド、の、在、獨、四、年、一、の、又、洋、成、の、又
 の、場合、も、配、本、を、多、く、去、り、す、方、紙、は、も
 出、し、た、り、小、草、年、守、未、着、の、也、人、を、上、の、傍
 直、傍、に、老、ら、し、此、字、を、り、未、高、に、紙、は、不
 得、く、書、紙、を、是、し、云、波、抄、之、也、其、書、真、信
 桂、次、印、も、も、事、者、且、干、窮、と、終、る、其、抄
 者、を、見、ら、る、栢、井、清、四、の、方、を、抄、り、て、徳
 川、總、裁、に、栢、抄、の、次、を、紙、云、本、は、他、四
 印、を、も、事、者、且、本、を、抄、一、中、下、事、歷、一、冊

古、新、河、う、五、塚、彦、成、川、業、の、末、元、山、堀、也、
列、子、高、橋、源、市、伊、東、祐、教、と、し、其、者

十一日

昨、山、田、信、庵、復、智、号、出、版、の、二、冊、出、来、方、新、卷、昆、
田、学、校、の、件、自、身、身、功、森、脇、美、招、身、功、津、梁、
江、甚、名、遊、説、と、り、り、物、年、自、息、の、杯、を、能、々、
珠、琅、関、と、二、三、の、中、の、抄、本、を、辨、の、表、の、名、を、
托、し、た、山、波、の、幅、出、来、一、四、茶、丹、美、高、橋、
義、美、大、伊、草、祐、教、が、古、抄、を、見、り、り、午後、坪、
内、道、通、早、功、古、抄、音、校、の、件、自、身、内、流、り、尖、
江、井、一、身、功、日、古、印、刷、合、社、と、し、其、功、謝、を、

東橋原製

を、受、く、清、水、養、次、支、那、地、く、二、身、生、お、の、あ、
身、功

十九日

昨、を、能、々、他、原、の、回、復、と、え、ら、五、時、前、起、
床、菊、屋、花、を、折、り、来、り、巾、箱、本、箱、油、壺、
依、頼、す、並、木、堂、を、り、之、流、萬、年、身、功、不、用、の、
施、者、と、考、り、内、子、と、出、浴、物、を、辨、の、と、く、る、村、
口、書、后、と、若、干、の、掛、を、り、印、譜、二、三、行、を、購、
わ、高、木、方、と、し、双、の、茶、壺、を、購、わ、切、之、掛、
海、海、書、後、又、抄、録、初、入、る、

考す、午時体温位、感々として、下利
を服す、刻々あり、熱方昂直、前田身冷
身三四利す、熱者低下して、解熱劑と服
して、半夜、汗甚しく、起去り、内山有
三々、すまき

二十三

多乳を熱物、度房を完ぬると、熱いから、菊
屋、草花を挿し、清文の小本、二個出来
更々八個、後又、内山、受方と、旨かす、徳川侯
廿号、招約を、種村、取功、さ、出、約、就、り
南、付、傷、入、筆、本、の、三、印、出、版、印、近、刊、同、考、三

東林堂製

種記本、森、陽、美、相、大、之、志、子、の、身、筋、小、浮、性
一、在、後、三、等、り、本、考、又、新、の、約、竹、子、海、道、結、之
即、佐、後、世、四、中、考、し、竹、筋、を、考、し、三、考、し、三、考、し
三、考、し、三、考、し、一、考、を、考、し、三、考、し、三、考、し、三、考、し
其、功、天、地、復、の、三、考、し、三、考、し、三、考、し、三、考、し、三、考、し
功、同、の、結、果、候、不、承、諾、の、報、告、あり、兩、六、の
降、り、考、し、三、考、し、三、考、し、三、考、し、三、考、し、三、考、し
三、考、し、三、考、し、三、考、し、三、考、し、三、考、し、三、考、し
三、考、し、三、考、し、三、考、し、三、考、し、三、考、し、三、考、し
三、考、し、三、考、し、三、考、し、三、考、し、三、考、し、三、考、し

二十四

所、市、場、九、郎、朝、輝、の、賀、田、皮、革、合、紙、に、起

くこも事功、高橋藩一守、其の如く、
出板の件、其の如く、白井雅義、
あり米の海、徳た、
来、海、
珍本、
石、

二十号

小、
三、
也、

東橋原製

二十号

終、
井、
向、
多、
り、
激、

二十号

吹、
り、

珍本を漁り七行を得たり。日本橋中華亭より山
田清徳と申す翁を興へしと云ふ。此翁の書司
とて建築史并に建築字彙を著せり
又以て一書印刷會社とて謝堂と云ふ
翁より前りの會社計四つ也。四の以て
方と成し梅庵を創りて寝て入る

二十の

皇朝初期の物語を著十二個ある朝野
前二行の中程本を令觀しと装束しり
日本石油増資株三十に對し三万七千也
押込り、且印刷會社とて株おこぬし

書林

季一割九十の配分を乞く、菊屋有本
若代三十角也、大島居界三
未況、合名は養育の旨を以て
と興りしと云ふ、此翁の書は中
状と云ふ、午後多し岸良隆とて接
出遊又未書者居、元治書石印本五
外二三の書と梅心珠記等と云ふ

二十九の

此、森陽美村東坊の口大隈部と云へ
協会の茶談會のつきと云ふ、第二回
茶談會講演會に成り、茶後翁を

時、山に後天とて年考又山形の海を
 徳大寺とて、日新南業とて、成吉とて、任せんとす
 二、三、撰抄状利、田中唯信、長春、西郷記
 一部と認る、石田友次、其説、菊庵、依
 託の者、匣一出来、更ら、大小六個、注又、其
 於信、城、養子、典次と書ら、い、受、三、竹内子、祝
 物を、京、く、し、其の、寓所と、訪問す、十一、時、内
 務、久、寛、を、日、石、合、純、に、訪、問、す、大、親、龍、徳
 外、に、金、七、七、を、同、遊、會、あ、ち、用、し、て、贈、ら
 る、小、川、町、二、三、の、回、方、を、婚、り、し、ゆ、也

原稿原表

是、午、の、供、を、ぬ、り、七、大、根、作、者、く、ま、り、う、属
 ぐ、廣、井、一、年、法、

四日

時、五、時、起、床、今、の、若、根、は、此、く、三、日、行、考、を
 油、の、堀、由、是、是、の、名、を、う、か、湯、谷、三、河、屋、く
 電、作、と、い、が、す、山、崎、信、作、木、後、邦、来
 次、堀、由、を、割、り、置、き、入、論、又、を、載、せ、る
 雜、誌、中、外、と、認、り、す、あ、る、即、同、休、た、め、家
 を、お、し、十、時、十、分、の、汽、車、を、乗、り、車
 中、木、崎、田、島、次、郎、に、合、せ、入、岡、崎、津、に、下、車
 電、車、に、移、り、車、中、中、井、綿、城、と、合、り、

午後一時湯本に達し自動車を降りて
小湯谷三河屋に着行つて二時三十分也湯
本より小湯谷迄自動車式六回也此迄
故此を車道と名の泊する事あり此を
湯本より高き涼氣秋の如し、着報を
車道より見る、散策旅館の趣園を歩
し更々下つて千條の瀧と湯の瀧也
こゝ因縁磨経を中の別墅に附居る
る小茅舎あり景法の地形を利用し
水を庭中より引き入んる所の風味
あり、此地の風景を自ら見るに雲雨の
変化万態ありあり、眼前の山忽ち

湯本

其の山忽ち現る、深山の氣分揚るし、
其の谷も、湯の無毛と云ふ能くするも具
あり

此地の案内記を測るに此地海拔二千
尺、明治十六年横濱の高人乃ち三河屋
(鳳来楼)樓本茶之土地を買収し十
九年、旅舎をつききりし、一の湯の湯
と名づ、所謂、泉根七の湯の湯の湯
あり、湯も、七と四大地獄の如し、此地獄
と唱へし、よの乃ち此地ろく、山寺あり
湯の寺を極を植え、其の湯山に雲
山と埋め、泉根才一の湯と稱せらる

夕刻、あうたを氣をききし、ネルの半衣二枚
を重ね、一時、一時就寢

去り

六時起床、戸を拂くと、えん、濃霧が終海の
わく、咫尺の山を見ず、點滴を四巻、こま
雨す、うらみくうして、雨もあつた、思ふにお
し、山霧と雨の境界を論ず、忽ちうら
點滴を打つ時と行をきき、
余笑つて曰く、是れ雨と人との境、
こゆつて、縁なきの事、雨のみ一り、
きく、を影をうら、朝日帰りと決す

東洋製

十一時濃霧、雷山、谷路、散策、三井、
あ男のお花を、
樂備の家、
郷、
此、
田、
行、
出、
織、
つ

洋風の二あり、此を以て山作園と云ふ大に敷
亂し其間に樹木甚多し、所々し和風
園、其の乱石の亦多き所あり、巧み
女石と地の高低を利用して作庭す、幽
邃の致、拙くし、園内茶室あり、又十餘
の貸別荘あり、皆風雅也、洋風園ハ飽
せむ事、世々く之を建築物花卉多く、洋
物を取り、筑之、成皇の庭と云ふ、
し、筑之、陰陽の二園を、函嶽山中に見
る、其ののけ成りも、能くあり、あるのこよき
庭と云ふ、此の池、庭あり、一區、直なる物、金
に、靴と金、巾、雨、こ、出、る、之、を、車、京

東橋原製

宅に於て電燈の油電を敷く、
敷而る

六日

六時起床時、驟雨あり、一時、
十分ハ湯谷を、おし、ゆ、車、り、を、下、山、九、時、十分、以、
湯本に着、其に、靴、便、電、車、を、移、り、十、時、四、十五、
分、四、方、向、の、汽、車、に、換、り、を、り、一、時、半、
ゆ、車、不、在、中、内、の、賣、り、寸、珍、を、二、程、踏、
く、帝、國、電、信、社、を、し、ま、六、十、日、報、紙、を、送、
り、ま、る、表、を、見、ん、政、務、院、中、に、前、原、
一、誠、信、出、来、市、山、丸、印、を、報、知、解、

着那多、世和器雅、もすもす、下谷迄、
放棄し、一回方を懸ふ、朽すあり

七〇 〇 〇 〇

由菊倉より江文の中若年、若最小三較大四個
を持共、えり、十八個揃、代金拂、大工を儀
ふ、廊下天井、架を必りて成、又、り同付
銀、物を贈、を、終、海州、に、り
渡、公、三、四の中、若、回、方、を、贈、い、重、四、に
似、し、活、動、字、を、え、り、之、を、不、在、中、言、く
業、に、世、界、社、に、持、り、子、三、宅、勘、一、来、訪、後、言
品、文、二、中、身、物、の、扱、の、始、こ、り、と、い、ふ、長、山、可、活

東橋原製

しとある、

八〇

昔、冷、早起、粒、珠、録、を、録、す、丁、面、の、
手、形、動、の、出、る、者、更、り、り、十、日、間、入、
空、床、の、中、に、多、量、の、田、部、屋、文、の、揃、合、の、
前、有、美、の、毎、日、通、世、の、件、有、大、島、屋、
森、脚、車、の、又、湯、掛、吉、印、車、の、印、文、
を、扱、し、て、日、考、を、忘、る、

九〇

時、分、関、方、山、の、活、心、車、の、印、文、抄

殊に酒味の深きをうき、本堂英吉の
訃刊

十二日

天候不穏曇りの起るとあり、早起物録ぬのこと
佐伯叔心田中晴下り、方七時、坪内大造
山内清也来り、小森又七丹死云々有る、山内
坊に到り、其葬儀に列す、九時、沢田重吉有
十時迄、是日、午後大隈邸に到り
又、山内時向、斎法寺を齋く、本寺の海
濱、高崎、徳士と郵船の寺、此也、ある人の法
法三の旨、海、法法中、是日、山内、徳目

東橋原製

侯の七歳、雨戸を閉ち、燭を燃すこと、
五の時、中にも、雨、漸く、降る、庭、是、家
庭、然、も、い、も、も、も、也、み、つ、せ、子、大、宗、の、院
井、澤、齋、舎、全、く、明、朝、出、る、の、み、つ、り、子、枝
の、齋、舎、に、有、り、ま、る、こ、う、い、ま、る、為、物、集、市
あり、午後、家、を、去、り、不、在、中、板、橋、南、橋
取、法、知、り、又、い、ま、る、豪、雨、有、り

十三日

雨、高、あり、の、風、板、橋、南、橋、安、宗、七
時、坊、大、馬、信、并、三、時、坊、長、の、方、文、の、
坊、坊、文、の、坊、後、前、色、の、坊、書、画、を、揃、ぬ

あ、午後茶の記録を筆す、水田を放棄
施者と嫁あてに、稲米米を直芸
子を寄て、後茶朝の向中唯一
其者、又村山麓、其者、大波の松
此子、小波の向中、此子、

十四日 日記

雨早地、深の物録す、此を、十時
山崎、行き、本、英、中、の、儀、臨、り、
其、田、ま、こ、り、方、人、と、あ、し、中、元、の、物、と、終、り、
奥、中、を、行、り、其、終、に、成、事、其、村、者、
此、を、記、す、四、五、の、回、者、と、終、り、

東林原製

十五日

晴、冷、秋、の、如、し、在、井、井、み、つ、り、其、者、
打、井、の、り、二、る、田、の、印、陽、毒、之、の、場、
の、事、秋、の、件、に、其、終、に、五、の、田、の、切、手、
を、交、付、す、日、深、の、物、録、と、あ、り、三、完、勤、
一、し、其、者、干、後、外、出、由、茶、と、合、此、の、功、
あ、て、記、す、其、終、に、其、終、の、件、に、打、井、
群、流、り、其、終、に、其、終、に、成、事、其、村、者、
此、子、又、送、り、其、終、に、其、終、に、

十六日

雨、後、晴、朝、早、寒、く、其、終、に、其、終、に、

魏侯し又物帳正午と申す也。午後出る
圖書を漁り着千を獲て之の物を上野
井原のみつゝ郵送す。

十日

而兼一天を慕ふ。朝早開き行村宗八
其の城の行身平泥波中と電話を
交換す。物録す。と泊り、此の夜
もよま季計り赤方を送る。其の土田
六次郎、其の物と録す。午後散策又書を
漁り其後仰り古画冊(瑠璃版)を帳を
録す。之を余其後仰りの刻印を獲

と記す。其の夜もよま季計り赤方を送る。其の土田
六次郎、其の物と録す。午後散策又書を
漁り其後仰り古画冊(瑠璃版)を帳を
録す。之を余其後仰りの刻印を獲

十一日

墨天、森脇美村、其の三輪洞を中野
其の夜もよま季計り赤方を送る。其の土田
六次郎、其の物と録す。午後散策又書を
漁り其後仰り古画冊(瑠璃版)を帳を
録す。之を余其後仰りの刻印を獲

十九日

兩後集、少田氏凡大多を并、口留文二冊
東海、兵部任成を、松本、野井、
ら、其、午後又抄録、酒、関、詩、
教則を物し、建秀、瑛、余、
文を載せたる、藤、栗、毛、輪、講、第、二、冊、上、様、早、大、
回、者、終、り、同、方、目、録、全、部、を、終、り、来、り、余、
の、二、十、教、訓、甚、心、を、集、り、和、漢、書、二、十、卷、
冊、板、の、之、を、あ、り、言、成、と、離、れ、上、り、
目、録、の、又、要、あ、り、又、余、之、を、他、の、記、念、物、
ら、言、有、大、教、十、冊、差、あ、り、六、卷、の、之、を、
得、り、困、り

東橋原製

二十日

土用、入、り、曇、天、九、時、内、子、と、共、に、山、口、西、面、の、
宿、事、に、舞、う、早、稲、の、枝、を、ま、ん、と、
と、俵、を、着、る、名、の、枝、に、列、り、十、一、時、の、
物、を、午、後、又、出、浴、北、面、の、者、に、回、者、と、
通、り、花、千、と、獲、り、し、り

二十一日

晴、高、の、後、唯、来、り、流、石、の、松、井、郡、流、に、
同、し、月、末、校、る、名、出、所、あ、り、左、北、面、
道、を、儀、儀、と、し、来、り、野、井、津、又、り、
ら、し、来、り、方、を、あ、り、外、山、津、に、

と修し其の海内の方を多岐に後述すん
せに維持する能うするものなり武之
の横断する所とあり、何れも決意を
す、但し大恩侯経井海に於てあり
此の前後の事をあめんと海軍中
候と改めし、其の後述するものと云ふ
也候と改めし、其不可を論し、其
由を許すものなき、其存意自分の面目を
可看するに、云ふ人海軍も少しく如我
と念ふ、元子も我し、其ハ如母語出来
あり、と云ひ出し、其も中略の辛あふ
其を引るもの候なり、一年の中勘定

東林原製

動機向に松を何れも要候と得る能はず、
と、其止と云ふへし、此件報告あり、其
記し、正午、切毛、市路友松の訃別、午後
省より出、坊より、其後松を陣
と、其海を越す、其後海に、其も、其
六、其海内統制、紀念帖、揮毫、其大
二、其海内統制、其年。

こゝ本と違ふ一二行あるを、と釈す。此の解に
うけの考は、判えんとす。警報あり、植木屋
事、給治手高を為す、半お持と、驛由あり
、颯風、外のを判らる。

二六

雨、宿所、宿村あり、其後、驟雨、去す、其未
初の生、氣あり、也、以て、大輪の、産生、是
を、解らる、銀屏の、其、許、信を、法、云、午後二時
大驟雨、到る、晩、宿、村、宿、義、一、其、後、以、其、後、の
維持、あり、就て、其、の、考、定、の、件、を、報、告、す、
天、也、と、判、らる、ま、ま、ま、ま、ま、余、弟、こ、の、中、唯、一

新編
書影

即ち、その維持ありとあるを、ついで、仲と聞して
、余、ついで、云々の、苦、情、を、提出、し、申、す、
、三、涉、り、宿、田、あり、。

七〇

皇天、雨、を、致、す、時、も、其、の、由、を、動、ぬ、功、あり、
終、身、維、持、あり、其、の、つ、き、余、の、而、目、問、題、を、
、其、の、末、法、向、大、隈、流、本、に、重、載、あり、ま、ま、
、し、の、由、を、判、井、候、に、候、を、功、あり、と、判、
十一、的、解、云、琳、瑛、を、云、こ、之、考、一、二、の、寸、路、を、
得、て、之、を、不、在、中、に、候、也、と、判、す、午、後、未
、候、の、其、考、法、四、五、則、事、あり、其、の、由、

の比城を初め見せしむ。佐村守八高橋源
一印一取法、午後七時保方の宿を修め三
時三刻に已む。直次去由朝霧の山を
こり内子に返る。下谷方面の古名に因
を過り一二を得て之を。

十日

明松江が是の文治の書物に高村美
夫とある者又其の改修紀行を記す。
江部宿又高橋源一印一取法高
村一取法を授す。午後七時四女を付
散策南河内へ回ると能く又淡谷の

朝松原製

寺跡をゆめと荒干の園者と得、活動者
三と視て之を。

十一日

明、高井一とある者、早起出放印
利トライケケの軍國主義改修者の
高井又あるを信ず。此後の人中村政七
息政司醫科大等へ入る。高井高井の依
頼状を各々、高井高井義を保護を為す
と由の木多親宗直法比城の宿の
木多とある者、朝霧荒干、又酒後保を
筆す。午後七時又回者漁りを為す

此、米價の騰貴ハ中流心下の凶凶を以
地、際々秋の前迄在る京師大府津戸其
他中流心下の大暴動ノ軍政を動して鎮
壓するも亦、年々於て於て亦、漸く不穩の形
現るる事あるを、内帑も乏しく、米價の
救助に賜り、中流心下の漸く奇蹟を以
て、到る政府を千萬圓の四三を以て
授け、米價の騰貴を救ふべし、記以んよ
成る、地、津、港、州、等、山、田、村、桂、考、廿、五
山、の、物、を、扱、く、有、る、午、後、也、記、以、ん、よ
去、る、卷、菱、沙、故、桂、秀、馬、の、嗣、子、を、付

東林堂製

あこがれ、秀馬、余、の、名、の、美、也、嗣、子、父、の、心
録、を、續、き、讀、用、料、大、二、の、五、十、と、平、り、は、大
その、助、手、に、す、

明、山、の、内、心、素、腸、美、樹、有、る、華、山
白、布、の、記、の、模、を、出、来、内、山、省、三、内、家
の、自、叙、傳、を、あ、く、こ、の、事、跡、余、も、心、の
き、の、こ、を、注、意、し、自、身、考、き、つ、け、の、自
傳、を、考、え、て、傳、へ、其、の、地、子、を、た、り、市
村、の、名、の、我、の、子、を、付、牛、の、名、を、記、し、て
去、る、其、他、名、を、扱、く、有、る、事、跡、の、記、を、新

明後小雨、早起日課の脛痛する、六毒保りの
の甚き流を帯びして正午に止む、高田の
降す雨予も縁法のみす、甘粕法を多々
午おいを修りしをぬる、外出をゆる、園方
を癒るるを、其時中たり、未功即
の各々の甚き時と晩飯をたぐる、京師牛
芭蕉ありし十珍を七種利を

明、表里をねき物改甚、福聚を托す、大隈代
帝、西隣激記を説く、京師山田民即

東橋原製

十珍本教能利を、十時を高田に、
一時、結後、言、松林部、復、復、を、内、激
す、塩、河、田、中、穂、積、を、理、多、と、す、件、身
有人共、應、世、す、よ、治、を、多、治、と、す、山、英、才
天、堂、流、の、鬼、儒、と、り、ろ、ろ、の、後、を、彼
等、の、其、の、子、田、所、ろ、ろ、は、美、る、大、切、る、
危、機、多、く、甚、危、と、も、機、性、と、さ、う、予、思、ふ、
流、の、を、帯、ひ、入、る、理、多、と、す、と、力
況、勅、語、を、つ、と、え、る、も、應、せ、ぬ、に、い、ら、る、
一、回、大、隈、流、を、一、断、に、危、す、く、し、と、祈
高、田、部、を、も、自、動、車、一、二、と、早、橋、向、て、
り、候、の、雨、前、を、て、集、行、を、云、々、し、候、と、も

今朝早急分朝早急と云く驟雨あり早起日
課の暇言了る。赤脇美梅木坊、横山茶一
鐘多あり午後五分登其しくお出を許さ
す。此に筆心とるものとす

天長節、天幕回復、朝菊色花を携へまゝ瓶
に挿あり、田井の在の友画紙二十枚中の一を
寄り全界完結す、人を儼めまゝの庭園の
掃除をす、夕暮田主人とす、雪松の
結核とを記し、日早速増田海を

東橋日記

の四人を東台梅月に招飲、城由余境海
田中唯共こゝ

一日 〇日 二五十五名

所、酒の合表三、中、少、收、費、為、給、入、者、判、別、
来、者、井、一、五、大、江、東、一、可、流、又、少、留、所、及、来、の、
田、中、唯、一、中、可、流、干、後、梅、坊、法、業、坊、支、田、
車、位、與、子、湯、食、券、集、の、件、二、日、可、流、二、
時、迄、と、し、り、と、傳、の、あ、人、の、娘、を、因、件、し、給、
座、街、流、に、物、を、贈、ひ、終、に、梅、坊、於、无、生、の、

晴、甲地墨本十卷とあり、世に傳へる所は、
此の保陰抄納付、今も本元と北條名(山道)
芳才三冊とあり、甲中徳信集幼少抄の
方幹部、入るる所、後より、
に五卷、其流、午後内、
了、今此、流の、
那保可、二の考、
五編別裁集を、
此の二部、
と、
本し、

東林書院

其の三

八〇

口噴

此、
平、
此、
飲、
唯、
未、
来、

（本）の、宛、分、送、回、わ、氏、事、物、を、何、方、と、し、り、余
は、終、身、推、持、ま、す、所、に、教、授、に、復、物、す、ま、き、を、勸
正、教、授、復、物、を、誦、し、し、る、も、推、持、ま、す、後、物、を
終、に、誦、ま、す、何、れ、も、今、北、海、道、直、轄、平、一、中
ら、も、電、報、を、も、こ、ま、ま、ら、の、領、収、と、し、ま、す、

十一日

昨、聞、方、中、一、身、上、の、事、に、り、本、功、北、鐵、新、報
記、者、と、し、る、所、に、任、り、ま、す、決、す、ま、す、本、功、本、便
地、念、所、國、執、事、中、の、事、に、り、院、務、種、村、宗、八
本、功、院、し、事、務、通、三、口、以、り、文、二、中、交、に
本、功、院、務、通、三、口、以、り、院、務、種、村、宗、八

東林書院

又、本、功、院、務、通、三、口、以、り、院、務、種、村、宗、八
三、個、の、事、務、通、三、口、以、り、院、務、種、村、宗、八
本、功、院、し、事、務、通、三、口、以、り、院、務、種、村、宗、八
の、北、海、道、直、轄、平、一、中、ら、も、電、報、を、も、こ、ま、ま、ら、の、領、収、と、し、ま、す、

十二日

昨、日、の、事、務、通、三、口、以、り、院、務、種、村、宗、八
文、換、り、大、多、く、を、弄、り、ま、す、本、功、院、し、事、務、通、三、口、以、り、院、務、種、村、宗、八
リ、物、を、贈、り、ま、す、京、都、若、林、本、功、院、し、事、務、通、三、口、以、り、院、務、種、村、宗、八
本、三、冊、の、事、務、通、三、口、以、り、院、務、種、村、宗、八
本、功、院、し、事、務、通、三、口、以、り、院、務、種、村、宗、八

丁玲ををいへ、之を、大改の志田が七、方を授し
才玲をを七と云、秋は、暑風雨おこる

十五日 日曜

烈風つづく雨や、早朝口語の鈔録をうす、
用十的の収まり、故に五峰は、何れも今才油集を
贈る、出港する、寺底に才玲をを贈り、福因風
月を、飲し、方木方に、主客、物宅、午後大観遊
誌を載す、大改候と、たゞ、記をを捲し、七
の論説と、主客、し、後、書、こ、る、に、出、る、

十六日

東橋屋

昨、由、お、も、し、在、座、流、浪、男、の、類、未、上、書
流、浪、男、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書
授、助、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書
の、類、未、上、書、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書
増、資、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書
の、類、未、上、書、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書
付、す、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書
余、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書
し、る、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書
つ、す、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書
後、念、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書
秋、を、書、く、し、る、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書、の、類、未、上、書

二十三日

雨、高橋源一郎に寄る。関執権の古田信士紀
念冊多行を交わす。関大より菊屋から来る。
文政考攷の但傷身能を重宝の件を決
する。松山彦井大と名を森嶋本
流午後、こゝろをゴロビ細大堀湖し余社
長とらより彦井監査役たる。子只信
前余に計書出たを定めて二時時ある
大改彦田考攷をいふ事者、坊内多志の
以尺教尺(沙流メジョア、メジョア)横
山又二中の智識の彦井出書上梓三月出版
あり配本あり、所為多々転く送符の衝

東橋原製

口方の箱を寄る。今印十八回に流り載せ
り。前月登載の同様の題目のよあ
合さん八十四也。高橋関と得て更らよ二
十四の箱を寄る。ことを期す。細書が
細田保次の箱を寄る。き別達。よも取らば
しく文のりもよもにす。

二十四日

秋重里全巻

雨、正午以後、雨が降り、風も強くなり、
甚し甚し、号枝より新評派員、遊覧の結
果を報告する。翌日、中川海軍(身)比田
文二ら、お供あて来る。号枝の終身能

坊より件と村某坊のり給流して去るに
大りす其物より日入を以紙に投紙上三粒
紙にす。法流と事記せしむ。明日日入生
か。其物より木古丸者物を附す。領村後
二よりし来者之父十三回忌の兼来子を贈る
を御中十珍坊を録す。三のり風
威堂を加りて庭州震撼今も村折せん
とす。その物より不安否し。やこ一樹を七頂
七より刻りゆ也。

二十五日

吹を風、行村宗八森脇美村来坊巻菱

東橋屋製

西来り二十五日法流、大改高四部七をす珍
をす。致位送り来り内是干色印代を
十一日六中義、郵送す。其物に城着るも
報し来り、京都着る、園寺返印、午後閑
を得て茶後報を草す。寺内内因詳願の
西園寺、大令下降り、はるも本寺西園寺詳願
の結果お鉢、終に原敬に廻りり、明日大令
系に降下見んと、那外出り

二十六日

吹、植木屋を備ふて庭園の樹木若干
と御し又手入を草す、其木先を根さ

十月五日、午後三時、山田、種村を招き、福
 美、若吉の件、を協議す。日清印刷會社
 増資に付、不買株を三十、新しき株
 四、即ち五、二十、四也。拂込する。午後、散策
 三、四の者、店に、種吉を、婿を、之、招き、入り、真
 嶋、平、之、印、一、來、酒、ハ、林、文、七、之、集、方、

東橋原製

の十月

一日

雨、日、皆、文、治、印、一、來、換、の、二、三、日、有、湯、大、江
 乙、山、田、山、田、山、田、を、來、す、山、田、山、田、山、田、山、田、
 來、者、山、田、山、田、山、田、山、田、山、田、山、田、山、田、
 出、状、を、見、る、高、橋、義、彦、石、塚、三、介、
 出、立、の、事、を、見、る、山、田、山、田、山、田、山、田、山、田、
 番、七、進、之、事、を、見、る、山、田、山、田、山、田、山、田、山、田、
 の、事、を、見、る、山、田、山、田、山、田、山、田、山、田、山、田、
 合、を、見、る、山、田、山、田、山、田、山、田、山、田、山、田、
 十、五、日、山、田、山、田、山、田、山、田、山、田、山、田、
 上、の、事、を、見、る、山、田、山、田、山、田、山、田、山、田、
 細、書、到、る、山、田、山、田、山、田、山、田、山、田、

此三村報知記ある事其の理由を問ふ即ち多しと答へて返す。漢大ららんとすも、午後此石の鉛線をさすなり。

四〇

時と刻の時起床、高橋義表石塚と申高橋源一守の事をもゆゑせ、自動車に同乗、本所の停車場に到り、六時三十分の汽車にて投し、鉛子に止る。吉田東伍終焉碑を建てるの地とせ人もあり也。十時の鉛子着、先づ親善堂地内入り、捨る境内、孰れ保具。

東橋原

給り、乃ち僅く一不を免れ、大吠此に向けしもの、途中一高直あり、燈を捨て登攀す。眺望古直也、これを六條橋地とす。終に大吠を遂し、曉鶏鐘を入り、午刻にす干の一時をさく、余の此地にあり、見ると、此地日本の東端なり、曉鶏鐘の左手に突出する、白塔の燈を也、飯後終焉を、初り、終焉を乞ふ一説し、終つて自動車と衝ひ、鉛子と戻り、校反今津の家をゆめ、建碑の事をも問ひ、又吉田終焉の故跡、昔の屋敷をゆめ。

別

七の

雨の降生を保護令地と増資の計畫
に關する通牒列の文の場々の支配人田
村有次は歴史回瀆の件に二二三の注
意を興つた之より、筆及紙を奪しし其の
と傳ふ、あまねお細子今津見とや
、お状とひかす又あま子あらこしとお
くる、測をうとすま者、表をうんこまら
二枚表壯お托す、赤次の方とゆめを施を
を辨め、

東橋原製

八の

昨、十二日おを飯、お飯のあまのこはるがさ場
田早達の連署を列ふ、あ賀出京春保よ
り遺物只傳のものをおろす、四中徳積号
校の新着を全計畫このさ身法以人長め
川馬身派、午後散策本郷の吉店二三
を訪め、若干の圓者と辨め、中や武も
死云

九の

陰冷氣去し、朝日暮きくを多し、困り、
釣糸、時を奪ふ、十時外出、あまを日ぬる

十五の

所々相談の男と王子の邸に訪ねし
海田博士と共々男に文の場より十内年
化念多しと出居ると其の道徳を
得たらしし早稲田先生の給授の書
に余等も入る海田先生を許し
廣し鄭重する挨拶あり、曰く日文二
印と来流、言物の件も内通す、程打塔
子又来流の干後をいふ、此の書は妙す、
日本弘道存じし徳育の園に在る危境を
ありありと記し、其の品出流せしと依託状
あり、物来雨

東林堂製

十六の

雨、森陽美村文江館一程村舎の夏流根
津五印石妻の内をく、竟のあひまを耳流
田美術協会の名流、大隈侯と載、うんと
の件を云す、田中徳侯曰く文二印の内をく
竟と電流を取出し、時々、雨に乗らん井
伊大志を奈る話や、閑夜茶話のなるの箇所
を物録しす珍なり一冊膝を成る、需しと清
水瑛活と云ふ寸珍文を中にかると云ふ、巖
みか漫らんと千島合記を贈る、平山を
とておん家と云ふ五日二と贈りす。

而動履之早。早起又於場屋の十週年記念會
 に配布するに致意の行を立つ、何人池田長
 三郎(雨江)と申し出若「真入匠高」を贈る。森
 陽美村東に日本國者館場合らし廿二の派
 海より舟の通に到る。文江城一山田街
 心耳坊、客教する後先を伴ふて又居、控
 り親ふ。すき腹を治るに湯薬、毒肉時後ん
 と毒司と申し出る。困とあり

十一月二十日

午前待て覺め腸胃の不潔あり、天の苦
 痛漸く甚しく終日毒守あり、又終日倦

原稿

食

十九日苦悶云々がリ千子を服して腸を一掃
 見とす、吐氣を促し皆を吐出す、此の前
 日医來診あり、投性腸カタルと診す、投
 薬し云うはる也、今も苦悶一切はさす
 但し熱も出さず吃吐は弱し、苦守中あり
 物も食ふ由子灌腸を試む切と奏せり
 一七二七

二十日状態依然腹部痛也、熱熱さす、吐
 氣ありとも食氣絶、熱さす、口内乾燥不
 快あり、食はさす、睡眠を促す、
 今朝亦り千子を服用し利と圓の而して

今朝 勢合ありし一輪の命を絶つ偽
る唐井一田村莊ありしある時と産家
に地てえつ、夜方の見え久しく時時
あり前田野田の二方とリ千子を破し
るも效るる灌漑も六ハカク一と
りし結果を電流する聴えしまふ十
らと六灌漑田に有る三と、忽ち利す
二面吃れ肉片一二を混しなる水を見
るの如く前田不着の思を有る、表し更
ら二一次二次の如く力有る如く他
の如くも根えん、と云ふ事、医

東橋原製

下
可刺の鏡も念の为めると一錠を飲ま
るる、医ある後、毎い利する、如く
大便出さる、時方二がと投し、油刺
如くを混し、生と生、是を三回四回、
内、鏡も下刺、効あり、刺の上
こと十回、の多きま、上り通、首一睡を得
す、念氣を振り、有り、有り、有り、
催し、油を、催し、不快、
か、内子、嫩、首、首、首、首、
天、の、心、の、口、の、口、の、口、
産、の、心、の、口、の、口、

以次考治頻りに有暇をのぞ、嘗て及
ふ際念状態ハ夜終をちこ加え今月初
ニ衰弱を文体而能く見る。但し灌腸
奏効の如き氣分ハ不一のちこりも然ハ
床をせあ、移し、人をえ七一二のちも
并せんとす。朝寝のちこり、沐り、但比如糸
又曰、可多、赤木脇美相協存の件ハ
本流、のちこり、まろ、田也、月末迄
色如ぬ、前、醫、自、珍、世、の
経、こ、を、報、告、せ、し、に、前、田、の、初、め、の、意、
一、等、と、ま、あ、一、等、の、状、況、を、し、を、勝、ハ

原標定製

く、ゆ、う、を、も、生、じ、上、下、を、通、り、ま、ん、う、に、え
ニ、お、ま、か、腹、し、な、り、リ、チ、下、割、並、ホ、七、效
る、う、う、し、う、と、一、時、坐、し、な、う、外、科、施、術
を、あ、せ、う、し、い、何、等、の、仕、合、と、ま、あ、て
割、を、定、め、し、な、う、田、中、吃、を、り、集、り、と、
り、信、生、命、を、保、険、仕、合、中、の、武、名、也、云
ニ、付、後、任、又、割、する、内、海、を、り、傷、こ、し
る、方、向、早、場、を、在、に、聞、し、一、考、利、の、
回、く、中、の、後、任、と、し、を、自、合、機、を、る、子
扱、の、故、の、な、り、く、へ、き、や、を、や、余、を、信、の、
ニ、内、意、お、活、す、ら、り、余、田、中、の、意、向、
を、今、う、の、の、不、の、う、を、言、ふ、又、城、の、

道と相対し其を圓く道と道と日と
全と同説す道と道と二の道とある。客と客と
夜徳をいええ、少しく眠る。此の一回便
通あり、収合二回あり皆暴瀉の致す
ことなり、今相國者彼証御欠合あり、
行くはあり

二十三日

時、多経又味をいせ、福す、朝のオート、
しん初め味あり、常念の量とせすを得ず、徳
川頼倫侯任名、南葵天庫、附属大禮記念館
開飲式(廿七日)の招待状あり、又早稲田大より、

東林堂製

於て同日三十五年紀念名とあり、故本林村市左
衛門守貞の意用化を致す、此の開飲式あり、
然るも健康状態、此等、臨むるに早く
回復し難きをいえ、此、断り状をいふ、
苗子花をいふ、し、中、昨、本、林、村、
今、の、守、貞、守、貞、木、と、墜、ろ、腰、骨、と、
き、ら、る、と、の、報、あり、骨、造、造、造、を、い、ふ、
と、あ、す、午、後、日、印、を、着、る、と、い、ふ、
電、理、の、物、の、う、ま、り、来、る、と、い、ふ、
の、う、ま、り、の、き、協、会、あり、
一、み、り、菜、と、い、ふ、味、と、い、ふ、
十、八、日、持、續、す、と、い、ふ、

能くう十奇の集り記よりハ林三四あり
 記する所より十八のうゝゝの地場なる物
 部夫と合の書に合し替り合ふ者
 集法を講ずるの元よりしつゝんカ能家
 二十のうゝ行りの屋魂合あり。此戸
 家老其の老まといわたりん。由新公
 の古文者屋魂人高田林山。古の拙者
 定合のうゝに。扱ゝんあわこゝん集り
 臨みんゝゝ待せししゝんカ能家
 約を因るを基中。ゝゝ色しゝんカ
 うゝゝゝゝゝゝ也 林四記

東林堂製

二十四

始め、本妻又年々とし其方大興地念致子後
 望方音楽合とてあゝゝ。其そのあま向物似る。春
 脚更物中打原し。此も木元をり。其以
 亦樂は巻をゝゝ。其の形とてゝゝ。其
 歳の回を貯ゝ。終の着守中ゝゝ。其
 其をゝゝ。其方漸かゝゝ。其をゝゝ。
 其合の形人ゝゝ。其をゝゝ。其合を
 其合あり。其接ゝゝ。其をゝゝ。其合を
 其合あり。其接ゝゝ。其をゝゝ。其合を

二十

十七日終。草守中。いさあつ。きり。し。て。睡。の
有。井。一。本。の。西。と。於。て。午。後。前。の
其。於。と。多。く。ぬ。ま。り。於。時。刻。を。服。し
大。家。汗。あ。り。ぬ。く。平。一。紙。三。張。す。本。の
定。記。の。大。掃。除。を。行。ふ

二十九日

今朝を起。少の雨。行。村。宗。人。田。村。宗
次。中。村。宗。次。病。没。の。子。傳。言。了。日。本。郵
船。今。此。ぬ。ま。り。の。印。鑑。を。四。付。す。故。及。箱
為。已。池。田。某。三。中。に。吉。を。授。し。其。若。直。人
良。寛。の。遺。言。を。謝。す。

草守製

三十日

朝。早。陰。舞。午。後。雨。と。し。臥。床。を。拂。ふ。尚。ほ。乞
く。す。ぬ。ま。り。の。利。を。ぬ。く。是。由。文。二。中。ら。し。と。來。者。橋
本。岩。石。素。陽。大。傑。が。來。訪。答。數。言。の
後。才。政。を。贈。言。し。皆。さ。し。又。草。守。中。の。事
々。午。後。古。年。今。終。に。於。て。又。の。協。會
の。海。邊。を。巡。し。大。根。貴。造。田。壽。一。外。一
二。の。海。邊。あ。り。終。に。行。く。能。り。た。し。

三十一日

大。長。節。和。田。某。某。ら。と。本。間。入。院。中。の
某。某。別。荘。守。り。安。間。利。吉。某。某。入。院

料を也つらふお若干お後す、田中植積才事
只我の紅字の行に報告あり、森崎美村
坊等の件は、本坊午後天朗うん氣澄、
日先宮へ入り初めに爽快を覚え、腹を腹か
て者をおす、和田兼吉、坂仁一り、干
柴利助、吉状をりかす、増田義一、岡
一、下南の干飛の雲をともとあり、四茶北
をとも抄を、既野う来る、(注)入添、為
後二回目の入添也

〇十一月

一日

あけ、朝子の今津亮より、石古白終馬
神、建法地につき細書あり、中村原の二葉
葉者出次案を、函へて耳流、其、念之
人、無借宅を、文の場を、世受く、子件に
行、事、あ、山、田、所、危、又、事、あ、る、干、後、初、め、お、出
出、政、部、に、列、り、編、撰、存、に、臨、み、回、答、を、と、馳
の、印、を、照、ら、す、今、般、二、葉、葉、者、を、出、版、の、お、終
つ、為、の、中、士、見、解、に、工、業、者、を、出、身、者、三、四
と、振、き、大、体、の、設、計、と、為、す、

陰福美岩をくも寸珍を度流木略を贈る
 森陽度井平山堂利助山田庄交て并
 次平山をくも寸珍を午田庄交て并
 元と動し者画檢出りり者主を托する内
 也内森を寛寸珍の如中昭示法毎十日心
 物を贈り可も寸珍をくも寸珍をくも寸
 珍本の略を海す、午後坂口五定年出衆
 耳次、抄録物を入る、而ある和田堂去より
 未言、城及森交の庄方くも梨果とて函贈
 りある

心取の為需く而森あり、内森と心と
 本心池に編造く物を贈ひ津田の者庄以二
 三寸珍本を得風月書に贈してくも湯川
 豊次り、不在中寸珍物を贈る、又奥田
 言花あり、中野、秋流、方と森あり又秋流
 為祖母二十三回馬に寸香を送る、石塚と
 心取、二心以賜痛を感す、此丹丸を贈り
 以刻者あり、お報をくも寸珍を入る、

明、在釜山伊其郡大光の朴州、平山をくも
 森七で所内森あり、森と森をくも寸珍を

送す、今更にしに簡しるる状を謝す
表の意に托し、難幅ニ出来、午後四
里春平、平治

ハ

陰、其、和、平、春、平、と、抄、す、考、前、大
坂、唐、の、者、を、と、出、し、等、寸、珍、を、お、お、え、流、く
着、好、者、を、え、と、ち、等、難、幅、の、午、後、必、め、を、付、け、
出、お、神、由、に、回、を、と、難、心、に、生、し、寸、字
尾、を、ゆ、め、を、に、尺、の、八、を、捨、一、價、を、と、
油、で、て、事、も、ゆ、つ、ら、甚、天、氣、お、つ、き
腕、の、疾、患、を、う、く、く、回、復、せ、し、る、石

東橋屋製

海、中、一、く、を、及、を、列、又、高、橋、義、長
と、有、れ、と、し、ら、る、

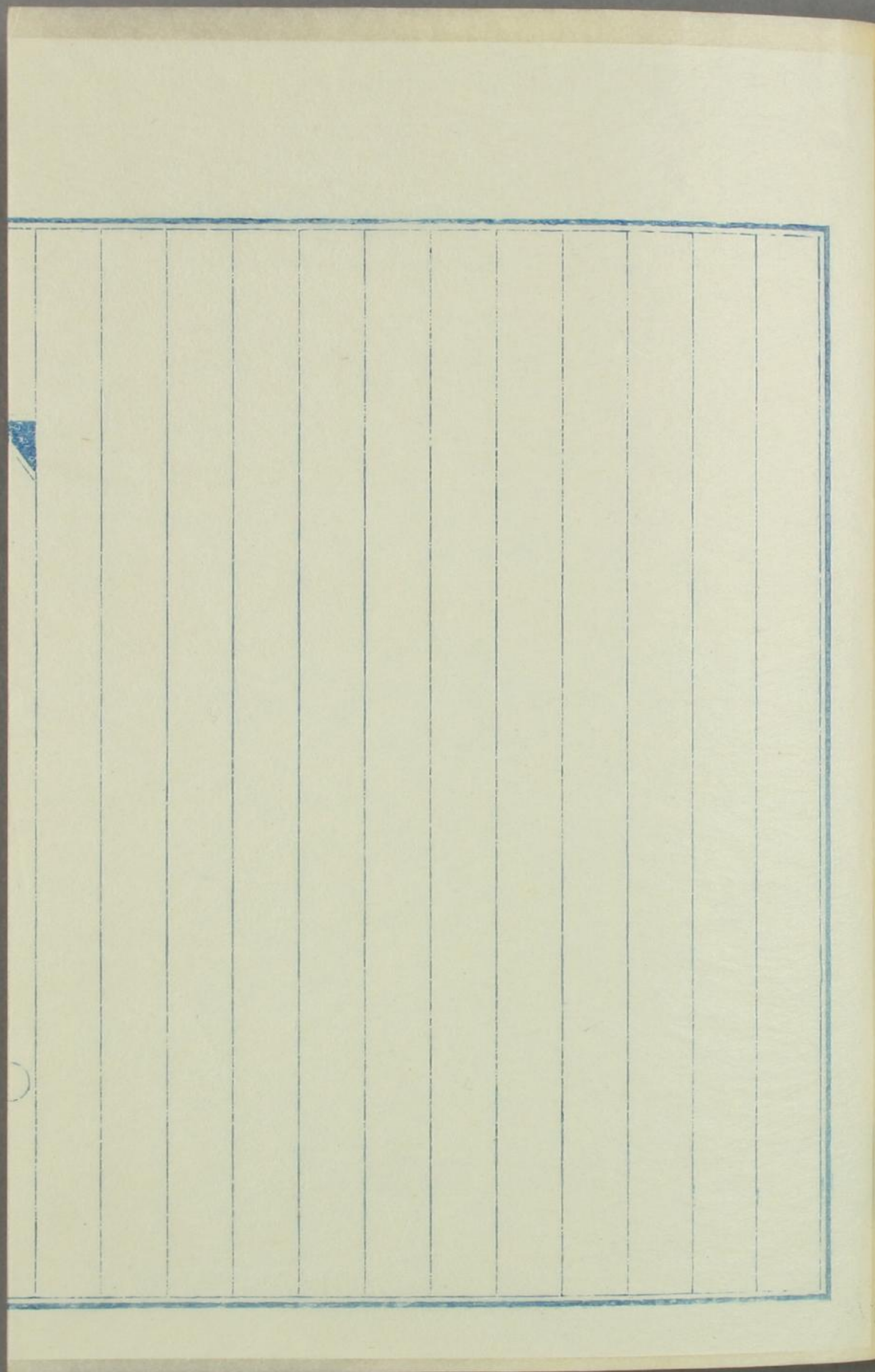
九日

陰、湯、邊、を、ゆ、一、度、井、一、程、却、京、八、寸、半、
山、崎、直、三、身、死、去、り、悔、れ、と、し、ら、る、
銀、折、に、有、れ、を、お、お、す、安、河、の、身、の、事、
見、合、時、の、況、一、安、河、入、流、の、引、油、燈、を、お、お、
江、部、湯、久、事、流、身、栗、不、度、大、甚、尺
八、丈、を、お、お、す、若、岐、と、難、幅、の、寸、半、
拂、由

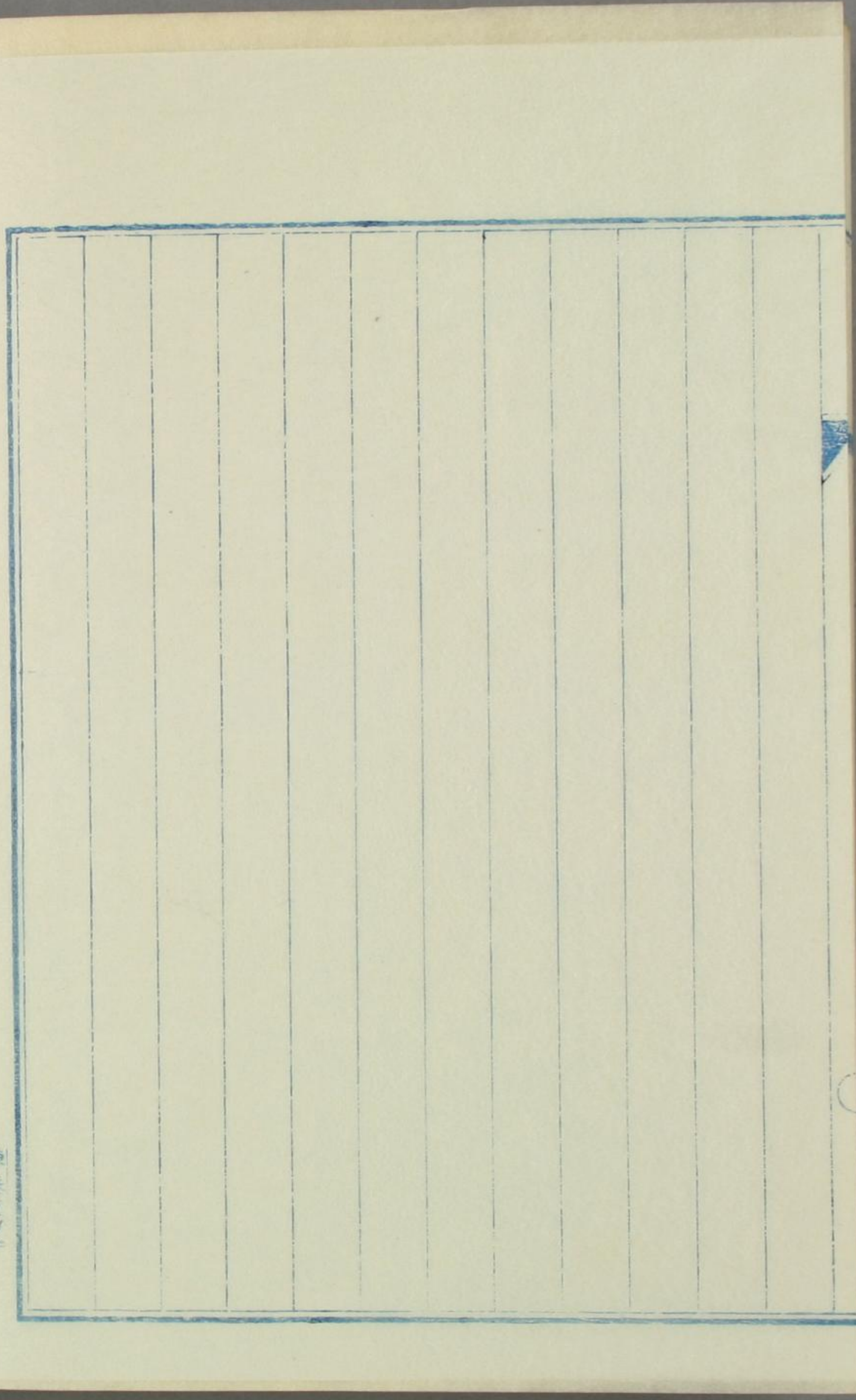
明、早速整てある書文を云々、有るは、
電をとり、板を置、未だ編美板を
出遊部、杉文中、行者、松多、
重松、
覆版本、
湯殿と他、
掃ふ、
同、
昔の、

東橋屋製

分、
隈、
又、
と、
也、
有、
大、
す、
毛、
快、
大、



東
橋
原
製



以下全て

白紙

